

2. 資質・能力を育むための授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の授業改善～

◇資質・能力を育むために

・調査結果 小学校 国語

中学校 国語

・調査結果 小学校 算数

中学校 数学

・調査結果 中学校 英語

◇「考え」を発信する場や機会をもつために

資質・能力を育むために ～「何を教えるか」ではなく「どのように学ぶか」～

これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

平成29年3月に公示された学習指導要領⁷では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて再整理され、これらの資質・能力の3つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。そのための授業改善の一つとして、新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現が求められています。そこでは、教師が主役ではなく、学習の主役は児童・生徒です。「主体的・対話的で深い学び」のある授業を通して、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性」といった3つの資質・能力を育成することを目指して授業改善を図っていきます。「主体的・対話的で深い学び」が目的ではなく、資質・能力を育むことが授業改善の目的です。授業を通して、単元を通して、教育課程を通して、子どもたちにどのような姿になってほしいのか、また、担任として、学年として、学校としてどのような力をつけていきたいのか、小さな視点ではなく、大きな視野をもって、子どもたちの成長を願い、よさを育てていく必要性があります。

7【新学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校新学習指導要領総則第3-1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

このようなことから、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、昨年度までは、A 問題【主として知識】、B 問題【主として活用】を問う設問構成となっていました。これらの区別を見直し、知識・活用を一体的に問う形式へと変更されています。また、ストーリーが組み込まれている問題形式や、日常生活の場面と関連している内容や構成が主となっています。知識を問う A 問題と活用を問う B 問題には相関関係があると言われていています。「知識」と「活用」をそれぞれ分けて育成するのではなく、活用の学習を通して知識が定着することも考えられます。つまり、知識と活用を分けるのではなく、相互に関連し合いながら育成していきます。新学習指導要領では、基礎・基本的な知識をいかに活用させて「生きて働く知識」を培うかが求められています。

調査結果 小学校 国語

平成31年度 調査結果 小学校【国語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	55	-8.8	61	63.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	63.7	-8.6	69.1	72.3
	書くこと	3	46.7	-7.8	52.7	54.5
	読むこと	3	76.5	-5.2	80.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	42.8	-10.7	49.2	53.5

※濃い黒い網掛けは全国平均正答率との差が10ポイント以上、薄い黒の網掛けは全国平均正答率との差が5ポイント以上(以下同様)

平成29・30年度調査結果 小学校 国語		【国語A：主として知識】				【国語B：主として活用】			
分類	区分	平成29年度		平成30年度		平成29年度		平成30年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		67.0	-7.8	65	-5.7	50.0	-7.5	47	-7.7
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	61.6	-7.6	87.9	-2.9	56.7	-8.2	57.7	-6.9
	書くこと	53.2	-7.4	71.9	-1.9	44.4	-9.0	36.9	-8.7
	読むこと	65.6	-4.6	69.7	-4.3	43.3	-5.9	38.7	-12.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.2	-7.8	59.7	-7.3				

調査結果 中学校 国語

平成31年度 調査結果 中学校【国語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		10	68	-4.8	73	72.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	64.9	-5.3	70.6	70.2
	書くこと	2	78.3	-4.3	82.0	82.6
	読むこと	3	67.7	-4.5	72.5	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	62.4	-5.3	67.0	67.7

平成29・30年度調査結果 中学校 国語		【国語A：主として知識】				【国語B：主として活用】			
分類	区分	平成29年度		平成30年度		平成29年度		平成30年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		74.0	-3.4	73	-3.1	68.0	-4.2	59	-2.2
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	73.0	-2.4	73.7	-1.5	68.3	-4.1	75.7	-0.9
	書くこと	82.7	-3.0	73.1	-0.8	55.2	-5.6	29.0	-2.3
	読むこと	70.7	-3.1	75.6	-1.1	68.6	-3.5	50.9	-2.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	-3.8	71.7	-4.8	33.1	-8.3	47.4	-1.8

調査結果 小学校 算数

平成31年度 調査結果 小学校【算数】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	60	-6.6	67	66.6
学習指導要領の領域等	数と計算	7	54.9	-8.3	63.3	63.2
	量と測定	3	44.7	-8.2	54.1	52.9
	図形	2	73.9	-2.8	76.6	76.7
	数量関係	7	60.5	-7.8	68.7	68.3

平成29・30年度調査結果 小学校 算数		【算数A：主として知識】				【算数B：主として活用】			
分類	区分	平成29年度		平成30年度		平成29年度		平成30年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		72.0	-6.6	59	-4.5	40.0	-5.9	45	-6.5
学習指導要領の領域等	数と計算	73.6	-7.0	54.3	-8.0	48.2	-4.6	50.9	-7.5
	量と測定	62.0	-6.8	72.5	-0.2	39.9	-7.1	44.0	-8.4
	図形	75.3	-5.8	51.8	-5.1	6.5	-6.7	55.7	-4.2
	数量関係	72.5	-7.1	53.8	-6.3	32.3	-7.7	38.7	-6.4

調査結果 中学校 数学

平成31年度 調査結果 中学校【数学】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	55	-4.8	59	59.8
学習指導要領の領域	数と式	5	55.9	-7.9	64.1	63.8
	図形	4	68.7	-3.7	73.5	72.4
	関数	3	33.6	-7.2	39.4	40.8
	資料の活用	4	54.6	-1.7	54.7	56.3

平成29・30年度調査結果 中学校 数学		【算数A：主として知識】				【算数B：主として活用】			
分類	区分	平成29年度		平成30年度		平成29年度		平成30年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		62.0	-2.6	63	-3.1	40.0	-5.9	43	-3.9
学習指導要領の領域等	数と式	64.4	-6.0	65.5	-5.6	48.2	-4.6	48.6	-2.8
	図形	65.8	-0.2	66.9	-2.2	39.9	-7.1	43.4	-3.3
	関数	55.4	-2.0	53.5	-2.0	6.5	-6.7	48.8	-4.0
	資料の活用	55.8	-1.8	62.0	-1.5	32.3	-7.7	31.5	-6.5

調査結果 中学校 英語

平成31年度 調査結果 中学校【英語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		21	53	-3.0	59	56.0
学習指導要領の領域	聞くこと	7	66.1	-1.8	70.1	67.9
	話すこと(参考値)					
	読むこと	6	52.0	-3.6	57.4	55.6
	書くこと	8	43.0	-2.8	49.7	45.8

※英語においては、今年度中学校で初めて行われたため、経年変化を示すデータはありません。

◇ 国語について

ここ数年課題とされている「書くこと」について分析していきます。

【小学校】

設問番号	書くこと	出題の趣旨	(参考※) 従来の区分		寒川町		
			「知識」	「活用」	(正答率%)	率全国との正差	無解答率
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で(資料2)と(資料3)をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	図表やグラフなどを用いた目的を捉える	○	○	66.6	-4.6	0.2
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2)公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える	○	○	52.2	-11.2	5.4
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く		○	21.5	-7.3	4.4

【中学校】

設問番号	書くこと	出題の趣旨	(参考※) 従来の区分		寒川町		
			「知識」	「活用」	(正答率%)	率全国との正差	無解答率
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する	○	○	86.3	-1.1	0.7
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く		○	70.4	-7.4	9.2

問題 小学校1三

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く。

この問題の趣旨は「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」です。自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大事となります。

問題 中学校3二

広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える。

この問題の趣旨は、「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」です。この設問では、目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、事実や事柄、意

見や心情が読み手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んだりすることなどに留意して書くことが大事です。

これまでも「書くこと」は課題として挙げられてきました。H31年度においても、自分の考えを持ち、表現する（書く）という設問に課題があると言えます。

校種や、設問内容が意図している目的によって変わりますが、「書くこと」は、誰に・何を報告するのかといった目的を明確にした上で、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめるのかを考えて書くことになります。

どちらの問題にも共通している点は、まずは、自分の考えを持つ、そして書くという流れで、自分の感じたことや、考えたことを表現していることです。

ただ、文字を写すといったことではなく、そこには「思考（考えを持つ）」を「表現（書く）」することが求められています。

「書く」ためには、思考しなければなりません。思考をして表現するという過程があります。つまり、書くためには、自分の考えを持つということが大事になってきます。

◇ 算数・数学について

ここ数年課題とされている「数と計算」「数と式」について分析していきます。

【小学校 算数】

設問番号	「数と計算」	出題の趣旨	（参考※） 従来の区分		寒川町		
			「知識」	「活用」	（正答率） %	全国との正差	無解答率
2（4）	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	○	○	43.2	-16.9	1.0
3（1）	$350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる		○	78.5	-3.3	1.0
3（2）	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなものかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる		○	20.5	-10.6	15.1
3（3）	被除数と除数にける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる		○	69.3	-5.6	2.4
3（4）	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している	○	○	39.0	-8.0	3.2

【中学校 数学】

設問番号	「数と式」	出題の趣旨	(参考※) 従来の区分		寒川町		
			「知識」	「活用」	(正答率%)	率全国の正差答	無解答率
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	○	○	53.4	-8.8	0.5
2	連立二元一次方程式を解く $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○	○	63.4	-6.7	6.4
9 (1)	説明をよみ、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる		○	47.8	-9.6	12.8
9 (2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる		○	52.0	-7.7	21.0
9 (3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n + 4)$ で表されたとき、 $2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる		○	63.1	-6.5	2.8

問題 小学校2 (4)

洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する。

この問題の趣旨は、「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」です。この問題では、四則の混合した整数と小数の計算ができることを目標としています。

今回の問題においては、具体的な場面を想起して四則の混合した式を計算する文脈が設定されています。つまり、ただ単純に計算をして答えを求めることができることを目標としているのではなく、具体的な場面と式を関連付けて考えたり、説明したりできることが大事となってきます。計算をして正確な答えを求めることは大事ですが、その計算の過程において、なぜそのような答えになるのかを、図や式や言葉を用いて、周りの友達に説明ができることは大切なことです。つまり、日々の算数の授業の場面においても、言葉と式と図を関連付けて考えたり、説明をしたりする場を設定したりするなど、「生きて働く知識」となるように授業展開を工夫する必要があります。

問題 小学校3 (2)

減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなものかを書く

また、この問題の趣旨は、「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できる」です。ここでは、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することを目標としています。

問題 中学校9 (2)

連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する

この問題の趣旨は、「事柄が成り立つ理由を説明することができる」です。ここでは、一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できることを目標としています。

数に関する性質を考察する場面では、数学的な結果を事象に即して解釈すること、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること、総合的・発展的に考察することが大切です。

新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」のある授業を行うためには、数学的な見方・考え方を生かすことが必要です。数学的な見方・考え方とは、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、(論理的、)統合的・発展的に考えること」と明記されています。

算数・数学の授業においても「考えを持つことから書く」といった活動を中心に、「思考力・判断力・表現力」を育てていく必要があります。前述したように、「書く」ためには、思考しなければなりません。よって算数・数学についても、書くためには、自分の考えを持つということが大事となってきます。

◇ 英語について

今年度、初めて中学校で英語の調査が実施されました。全体として全国平均正答率と比べて、有意差のない範囲に入っているとともに、それぞれの領域「聞くこと」「読むこと」「書くこと」においても、全国と同じ傾向であるといえます。（今回、話すことは参考値のためデータはありません。）

これまでお伝えしている「書くこと」について英語においても分析していきます。

設問番号	書くこと	出題の趣旨	（参考） 従来の区分		寒川町		
			「知識」	「活用」	正答率（％）	全国正答率との差	無解答率
9（1） ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる	○		75.9	-4.0	0.9
9（1） ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる	○		58.2	0.0	1.2
9（2） ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる	○		72.3	-1.3	4.5
9（2） ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる	○		24.8	-4.1	17.5
9（3） ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	○		46.8	-6.7	9.5

問題 中学校9（3）①

与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く

この問題の趣旨は、「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」です。ここにおいては、語と語のつながりなどに注意して文を書くことができるようにすることが大切となってきます。「書くこと」について、考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるよう指導したり、I、You以外の主語を用いて書く機会を設けたりする工夫が考えられます。

国語、算数、英語の分析を通して、特に「自分の考えをまとめて、書く」ことが、寒川の児童・生徒が苦手としているところが課題として浮かび上がってきました。

◇ 各教科における記述式問題について

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			寒川町		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	語の特質	伝統的な言語文化と国	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2調査の内容と結果」の①と②で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く		□					○	21.5	-7.3	4.4
2一(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】のイに、疑問に思ったことの②に対する答えになるように考えて書く				□				○	64.9	-11.0	5.6
3三	【インタビューの様子】のイに、量職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	□						○	52.9	-15.3	24.4

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			寒川町		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	語の特質	伝統的な言語文化と国	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ			□				○	89.6	-1.6	2.1
2三	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	□						○	51.9	-8.5	10.9
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く		□					○	70.4	-7.4	9.2

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			問題形式			寒川町		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	との全国差正答率
1 (3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる	□					○	37.6	-6.3	10.2
2 (3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる	□		□			○	46.3	-5.8	1.2
3 (2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなものかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	□					○	20.5	-10.6	15.1
4 (3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する	場面の状況から、単位置当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる	□		□			○	50.2	-12.4	5.4

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				問題形式			寒川町		
			数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	との全国差正答率	無解答率
6 (2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			□			○	26.2	-8.5	17.0	
7 (3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる		□				○	49.6	-3.7	21.5	
8 (2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる						○	41.1	0.3	24.3	
9 (2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる	□					○	52.0	-7.7	21.0	

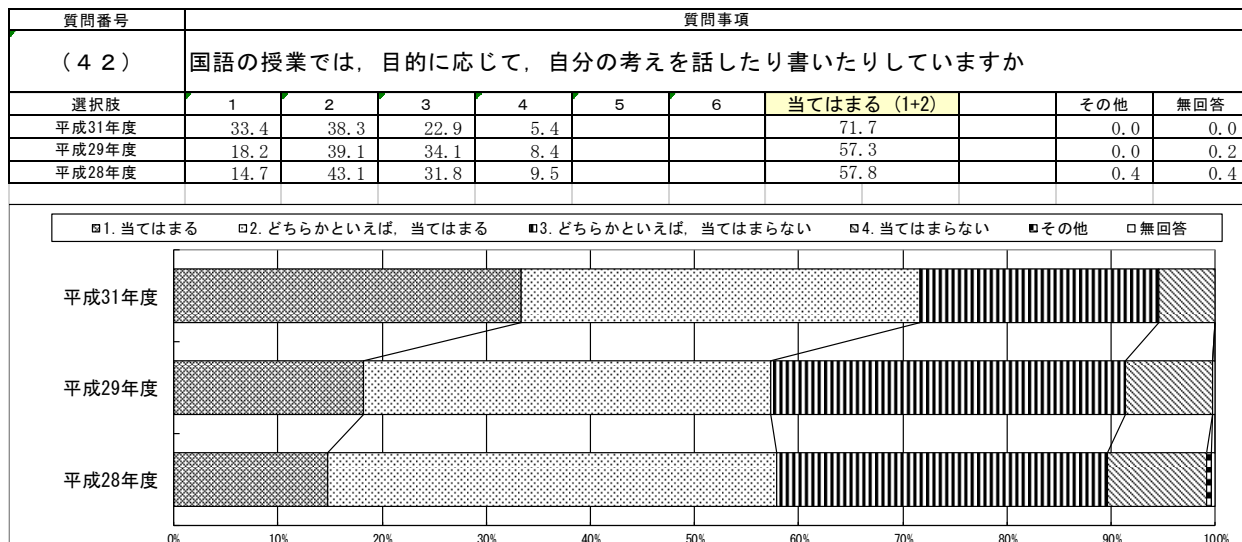
◇ 「考え」を発信する場や機会をもつために

上記の結果は、小学校・中学校における国語と算数の記述式の設問について示したものです。記述式の問題を解答するためには、「考えること」つまり「自分の考えをまとめる」ことが大切です。この結果より、記述式問題を苦手としている児童・生徒が多いということは、考えること（思考力）に課題があると考えられます。

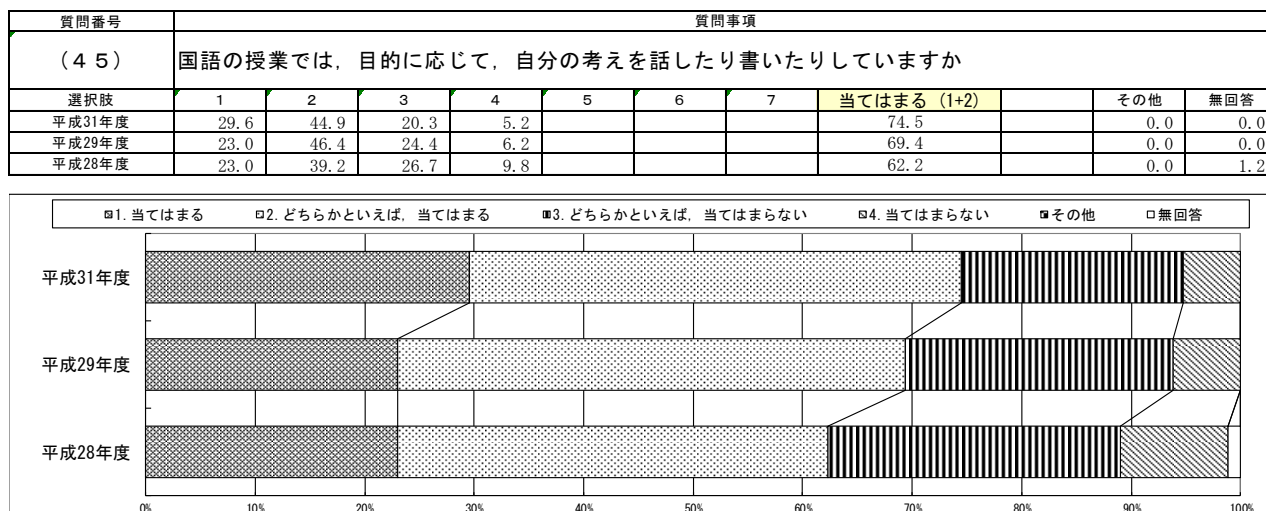
以下の児童・生徒質問紙【小・(42)】【中・(45)】では、平成29年度の調査から、ポイントが大きくあがっています。この結果より、年を追うごとに児童・生徒が、授業の

中で自分の考えを話したり、書いたりしていることが授業の中で位置付けられていることが分かります。前述した通り、書くためには、自分の考えを持たなければなりません。学校においては、児童・生徒が考え、発信できる場や機会が保障されていることが分かります。

国語【小学校児童質問紙】

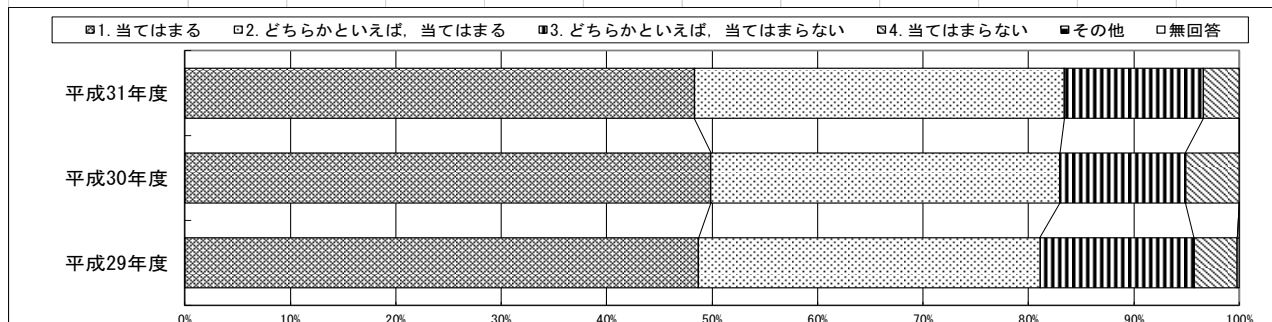


【中学校質問用紙】



算数【児童質問紙調査】

質問番号	質問事項									
(55)	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	48.3	35.1	13.2	3.4			83.4		0.0	0.0
平成30年度	49.9	33.1	11.9	5.1			83.0		0.0	0.0
平成29年度	48.7	32.4	14.6	4.1			81.1		0.0	0.2

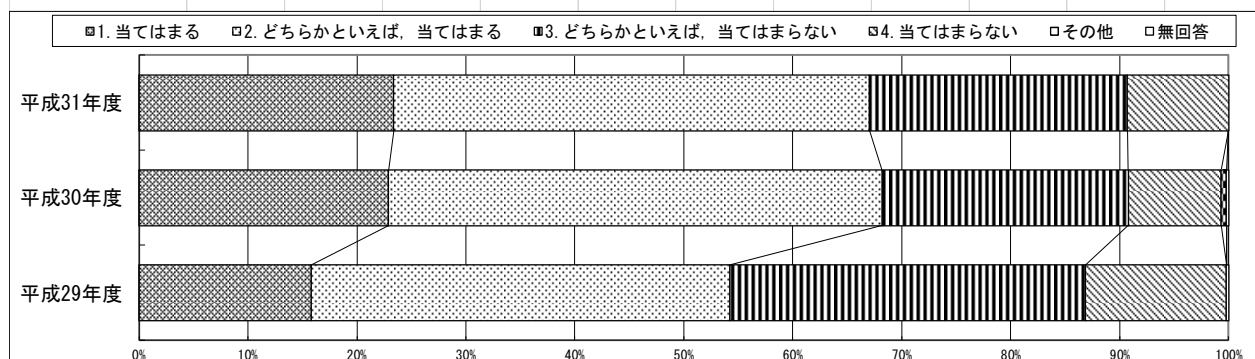


以下の項目では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に関する調査結果です。「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現のためには、対話的な学びの過程（他者との交流）が授業を構成する上で、大事となってきます。自分の考えを持ち、友達と交流をする。交流する場がなければ対話は生まれません。

話し合いに向けた取り組みについては、小学校児童質問紙【質問番号（29）】、中学校生徒質問紙【質問番号（32）】、小学校児童質問紙【質問番号（32）】、中学校生徒質問紙【質問番号（35）】、小学校児童質問紙【質問番号（34）】、中学校生徒質問紙【質問番号（39）】、にあります。

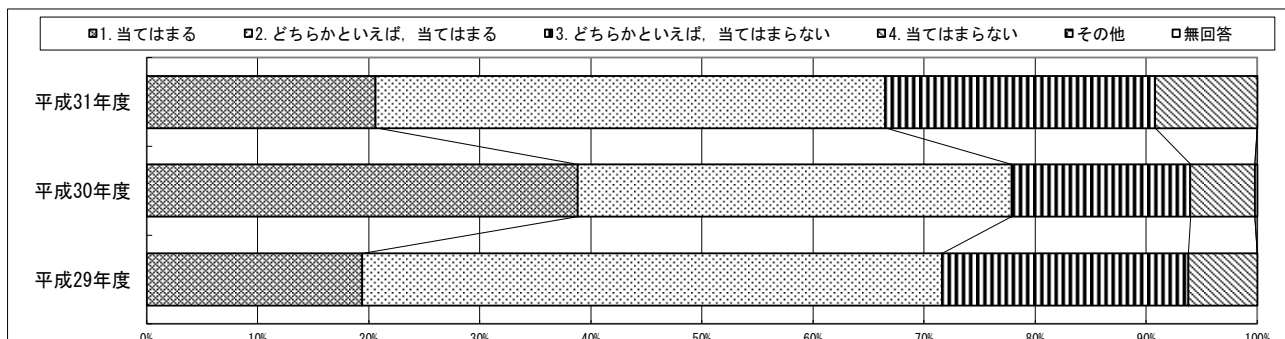
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(29)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	23.4	43.7	23.7	9.3			67.1		0.0	0.0
平成30年度	22.9	45.3	22.6	8.5			68.2		0.5	0.2
平成29年度	15.8	38.4	32.6	12.9			54.2		0.0	0.2



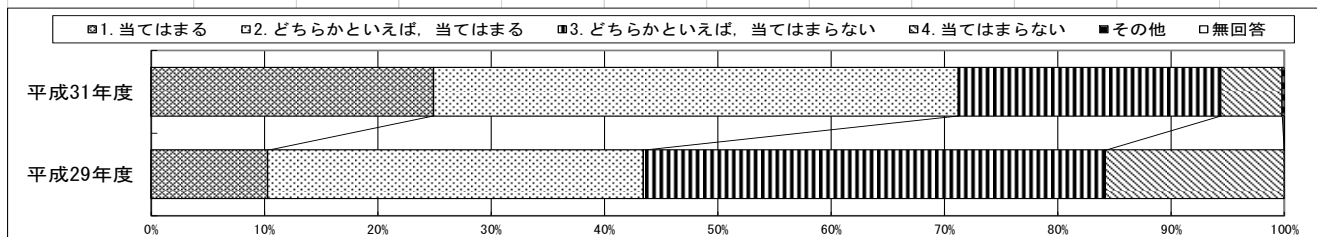
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(32)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	20.6	45.9	24.3	9.2				66.5	0.0	0.0
平成30年度	38.8	39.0	16.1	5.8				77.8	0.0	0.2
平成29年度	19.4	52.2	22.2	6.2				71.6	0.0	0.0



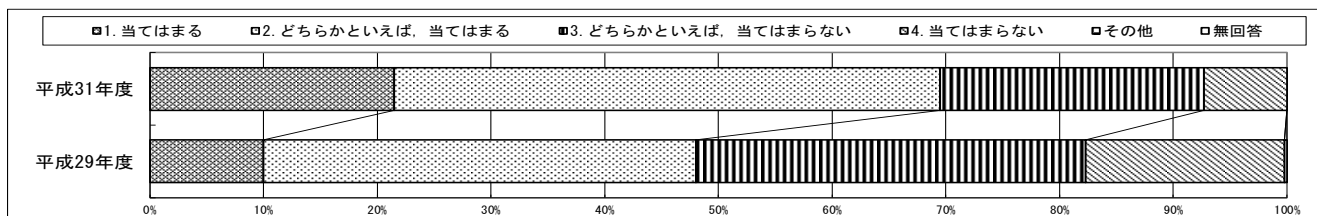
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(32)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	24.9	46.3	23.2	5.4				71.2	0.2	0.0
平成29年度	10.3	33.1	40.8	15.8				43.4	0.0	0.0



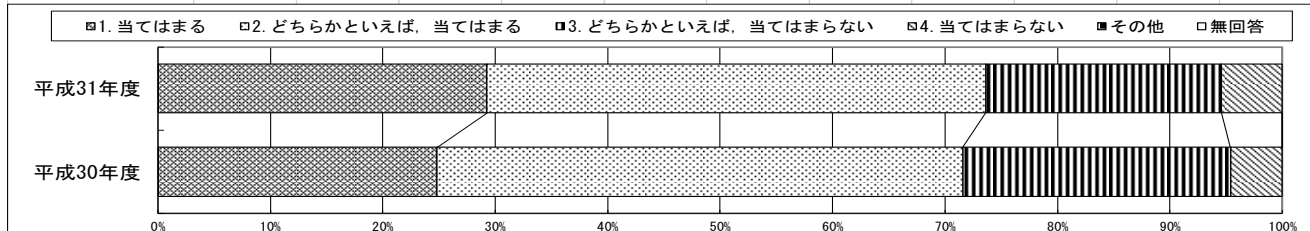
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(35)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	21.5	48.0	23.2	7.3				69.5	0.0	0.0
平成29年度	10.0	38.0	34.2	17.5				48.0	0.0	0.2



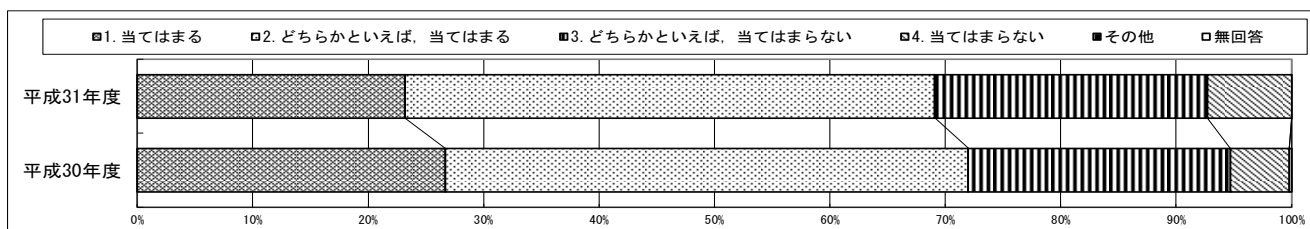
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(35)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)	その他	無回答	
平成31年度	29.3	44.4	21.0	5.4			73.7	0.0	0.0	
平成30年度	24.8	46.7	23.8	4.6			71.5	0.0	0.0	



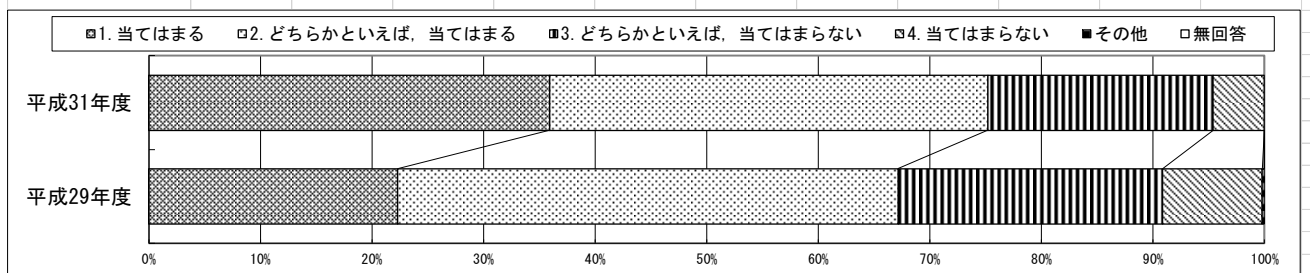
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(37)	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	23.2	45.9	23.6	7.3				69.1	0.0	0.0
平成30年度	26.7	45.3	22.7	5.1				72.0	0.0	0.2



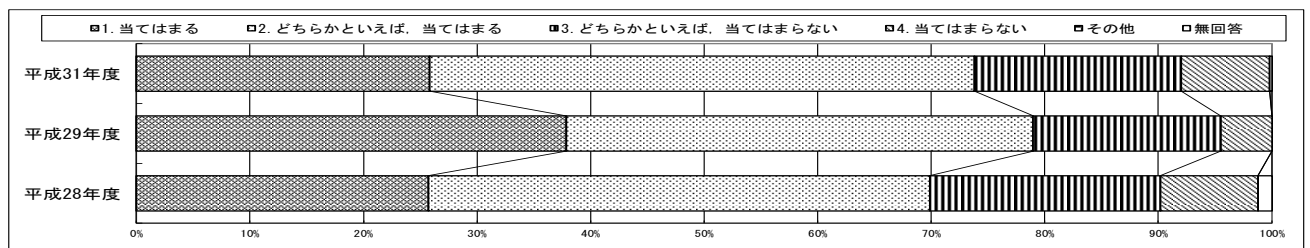
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(34)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)	その他	無回答	
平成31年度	35.9	39.3	20.2	4.6			75.2	0.0	0.0	
平成29年度	22.3	44.8	23.7	8.9			67.1	0.2	0.0	



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(39)	1, 2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	25.8	48.0	18.2	7.8				73.8	0.0	0.2
平成29年度	37.8	41.1	16.5	4.5				78.9	0.0	0.0
平成28年度	25.7	44.1	20.3	8.6				69.8	0.0	1.2



小学校児童質問紙【質問番号（32）】、中学校生徒質問紙【質問番号（35）】では、平成29年度に比べて、小学校、中学校ともに大きく割合があがっていることが見てとれます。学級活動における話し合いが活発に行われていることがわかります。

また、小学校児童質問紙【質問番号（34）】、中学校生徒質問紙【質問番号（39）】では「特別の教科 道徳」で示されているように、考え、議論する道徳が実施されています。このように、授業において話し合い活動が積極的に行われ、他者と交流する機会が意図的・計画的に取り入れられている様子が伝わってきます。まさに、新学習指導要領に向けて取り組んでいる、授業改善の視点のひとつの表れである、「主体的・対話的で深い学び」の学習スタイルが定着していることがわかります。

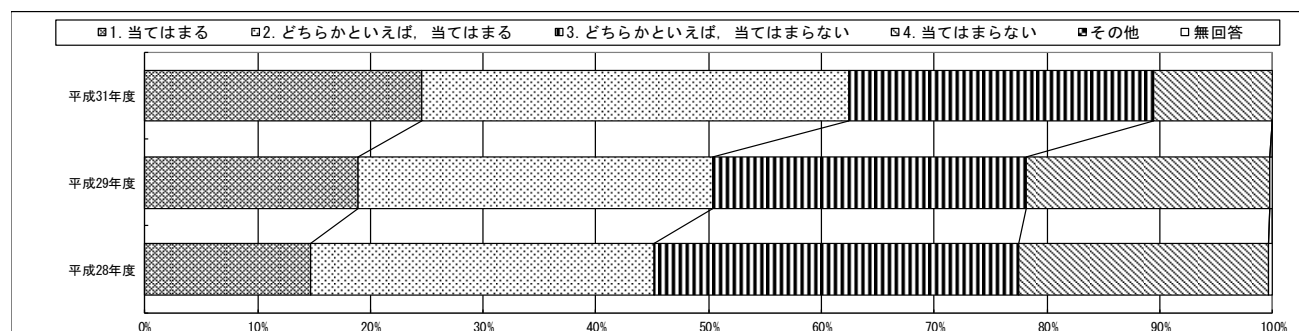
さらに、小学校児童質問紙【質問番号（35）】、中学校生徒質問紙【質問番号（37）】では、児童・生徒自らが、主体的な学びの過程についての取り組みの結果と読み取れます。

児童・生徒も主体的で対話的で深い学びという、新しい学習スタイルに、教師だけでなく児童生徒も、少しずつ馴染んでいる姿を見て取ることができます。

また、以下に、国語に関する児童・生徒質問紙【小・質問番号（37）】【中・質問番号（40）】「国語の勉強が好きですか」、算数に関する児童・生徒質問紙【小・質問番号（46）】【中・質問番号（49）】「算数・数学の勉強が好きですか」についての結果を示しています。

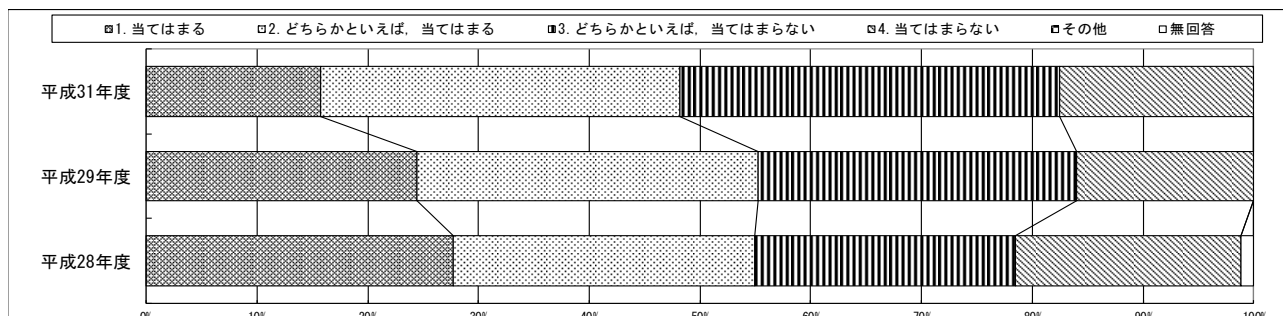
【児童質問紙調査】

質問番号	質問事項									
(37)	国語の勉強は好きですか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	24.6	37.8	27.1	10.5			62.4		0.0	0.0
平成29年度	18.9	31.4	27.8	21.6			50.3		0.0	0.2
平成28年度	14.7	30.5	32.3	22.1			45.2		0.0	0.4



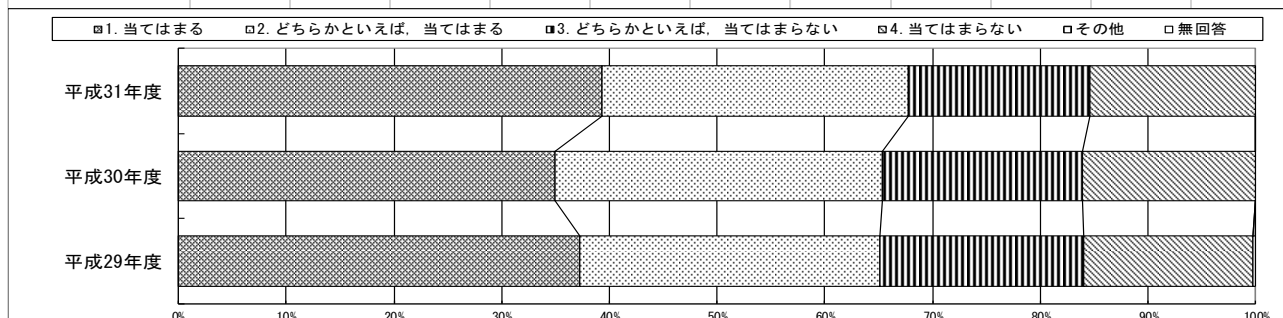
【生徒質問紙調査】

質問番号	質問事項										
(40)	国語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	15.8	32.4	34.3	17.5				48.2		0.0	0.0
平成29年度	24.4	30.9	28.7	16.0				55.3		0.0	0.0
平成28年度	27.7	27.2	23.5	20.3				54.9		0.0	1.2



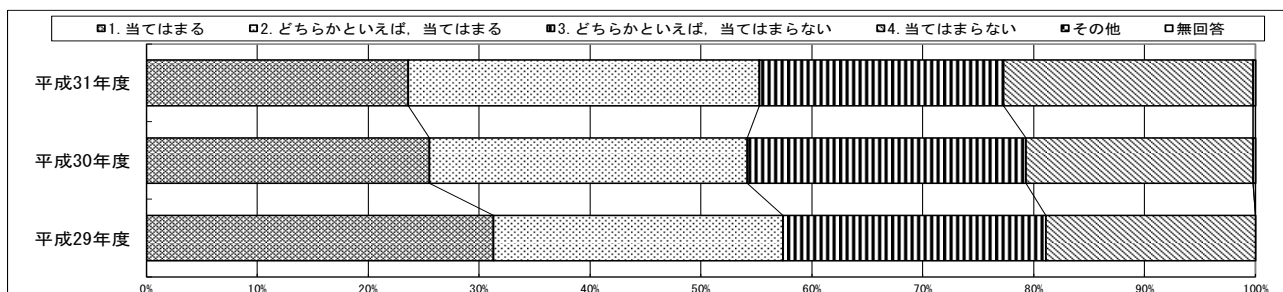
【児童質問紙調査】

質問番号	質問事項										
(46)	算数の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答	
平成31年度	39.3	28.5	16.8	15.4			67.8		0.0	0.0	
平成30年度	35.0	30.4	18.5	16.1			65.4		0.0	0.0	
平成29年度	37.2	27.8	18.9	15.8			65.0		0.0	0.2	



【生徒質問紙調査】

質問番号	質問事項										
(49)	数学の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	23.6	31.7	22.0	22.5				55.3		0.0	0.2
平成30年度	25.5	28.7	25.1	20.5				54.2		0.0	0.2
平成29年度	31.3	26.1	23.7	18.9				57.4		0.0	0.0



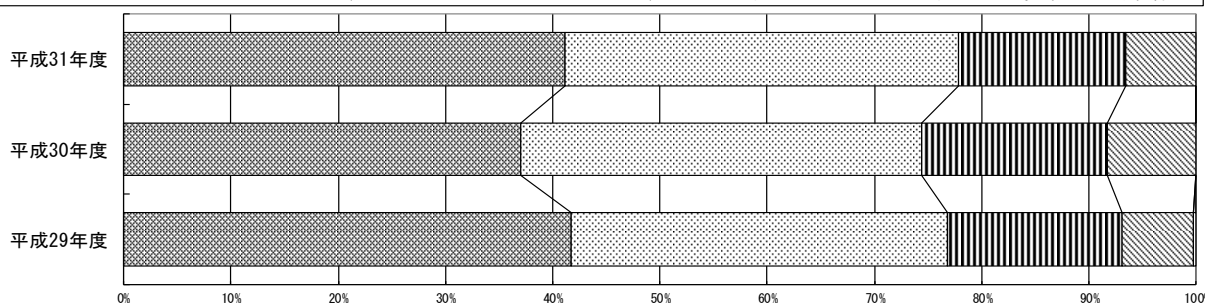
勉強が好きということは、授業が楽しいと置き換えることができます。校内研究等での取り組みを中心とした、児童が主体的に考え学ぶことができるような授業が展開されていることで、児童が学習に対して、興味・関心をもって取り組んでいる様子が伝わってきます。今後も、児童の興味・関心を高める授業づくりに取り組むことによって、児童・生徒

の学びに向かう力の育成ができることが考えられます。

【児童質問紙調査】

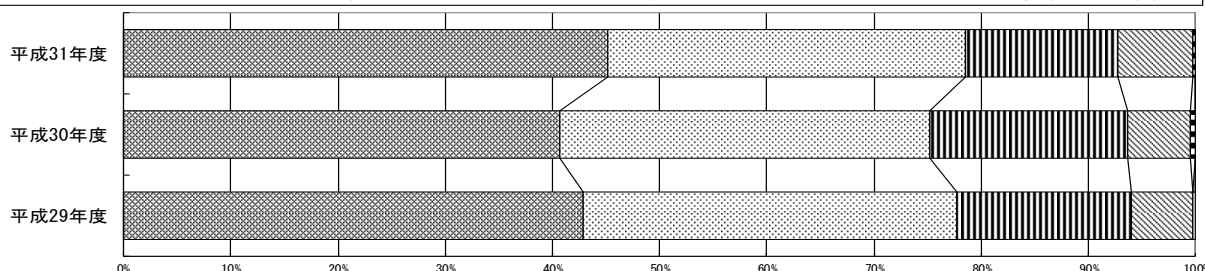
質問番号	質問事項									
(52)	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	41.2	36.6	15.6	6.6			77.8		0.0	0.0
平成30年度	37.0	37.5	17.3	8.3			74.5		0.0	0.0
平成29年度	41.7	35.0	16.3	6.7			76.7		0.0	0.2

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



質問番号	質問事項									
(53)	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	45.1	33.4	14.1	7.1			78.5		0.2	0.0
平成30年度	40.6	34.5	18.5	5.8			75.1		0.5	0.0
平成29年度	42.9	34.8	16.3	5.8			77.7		0.0	0.2

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



小学校児童質問紙のみの回答項目となっていますが、児童質問紙【質問番号(51)】「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」【質問番号(52)】「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」【質問番号(53)】「算数の授業で問題を解くときに、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の質問については、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、どのように取り組んでいるか示している項目と考えられます。

【質問番号(51)】【質問番号(52)】の児童質問紙項目では、児童の主体的な姿について、【質問番号(52)】【質問番号(53)】では、数学的な見方や考え方を働かして深い学びに向かう姿について示されている項目と考えられます。

新学習指導要領で育むべき資質・能力である、「学びに向かう力」では、子どもたちが学習に対して、意欲的に取り組む姿も重要視されます。校内研究を中心として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善が熱心に図られていることによって、児童が意欲的に取り組んでいる姿が算数の学習においても、質問紙から見て取れます。

町内小・中8校では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現に向けて、校内研究を中心に取り組んでいます。上記の結果より、小・中8校が、校内研究において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいることが表れていると考えられます。新学習指導要領で求められていることと、寒川町が向かっている方向性は同じです。自分の考えを書く（話す）という活動は、新学習指導要領における3つの柱の一つである「思考力・判断力・表現力」の育成につながります。

「考えること（思考力）」を育んでいくためには、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の取り組みを進めていき、今後も自分の「考えを話したり、書いたり」という活動を、授業において意図的・計画的に取り入れることが必要となります。このことによって、子どもたちが自分の考えを持つことができるようになると思われま

す。また、活用を問う問題を苦手とする傾向が見られました。算数の調査問題では、身近な生活経験から算数の世界へと誘う問題や物語性のある課題が設定されています。授業においても、単に知識を問うのではなく、ストーリーや文脈の中で、子どもたちが知識を活用できる授業づくりの場の設定が大事となってきます。つまり、知識と活用を分けるのではなく、相互に関連し合いながら育成していくことが大事です。

そのためには、「どんな子どもたちに育てたいのか」という明確なビジョンを教師がもって授業づくりに臨むことが大切です。そして、このような「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを核とした取り組みを継続的に行うことで、児童・生徒一人ひとりの考える力を伸ばすことができると考えます。